

抗生物質混入に注意を！

今月は牧草収穫から肥料散布と忙しい時期です。皆さんの疲れもピークに達するころだと思えます。疲れが溜まってくると、事故も起こりやすくなります。誤って乳房炎治療牛を搾乳し、生乳に抗生物質混入が起らないよう、徹底した対策を行いましょ。

1 根室管内の抗生物質混入状況

根室管内の抗生物質混入事故は毎年十数件発生しています(表1)。1件の事故の背景には300倍のヒヤリ、ハットの出来事が起こっていると言われています(図1)。抗生物質混入は決して人ごとではなく自分の農場でも起こりえることなので、十分注意する必要があります。

表1 根室管内の抗生物質混入事故状況
(根室家畜衛生保健所調べ)

年度	件数	主な混入理由
24	15	マーキングし忘れ(2件) マーキングの見落とし(6件)
25	16	マーキングし忘れ(4件) マーキングの見落とし(6件)
26	13	マーキングし忘れ(1件) マーキングの見落とし(8件)

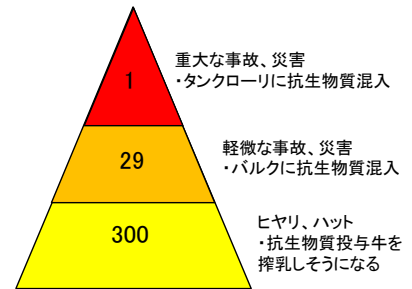


図1 ハインリッヒの法則

※1件の重大な事故、災害の背景には29件の軽微な事故、災害、300件のヒヤリ、ハットが起こっていると考えられる。

2 抗生物質混入を防ぐために

根室管内では「マーキングのし忘れ、見落とし」が抗生物質混入の大きな原因となっております(表1)。2重、3重の防止対策を実施し、確実に抗生物質が生乳に混入しないようにしましょ。

(1) 牛体へのマーキングの実施

マーキング作業は抗生物質投与前に行いませよ。投与後にマーキングをすると、マーキングのし忘れや、別の牛へ間違つてマーキングをしてしまふ恐れがあります。対策として乳房や牛体後軀に赤や青等目立つ色でマーキングをする(写真1)。足バンドをつける(写真2)。他に牛の目の前に看板を吊す方法もあります(写真3)。これらのことを最低2つ以上実施して、確実にマーキングの見落としを防ぎ

ましょ。



写真1 牛体へのマーキング

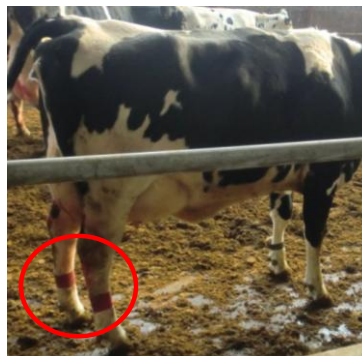


写真2 足バンドの装着

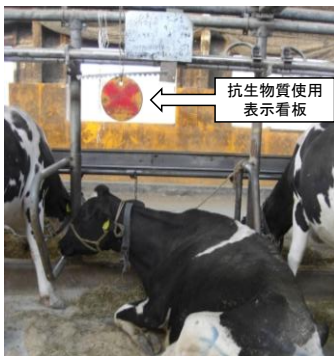


写真3 看板の設置

(2) 搾乳作業者同士の周知徹底

治療牛や分娩牛の搾乳者が入れ

替わる農場では、作業者同士の引継は重要です。日頃の声かけや報連相の時間を取りながら周知徹底しましょ。全作業者が確認する連絡ボードに記載することも有効です。またバケツトミルカーの取り間違いで抗生物質が混入した事例もあります。バケツト搾乳者が責任を持って廃棄乳を処理しましょ。

たとえ抗生物質がミルクローリに入らなかつたとしても、バルクの生乳を廃棄することは、経営にも精神的にも大ダメージとなります。慣れている作業だからこそ確認を忘れず十分気をつけて下さい。抗生物質残留事故だけではなく、農作業事故にも十分気をつけて作業をすすめて下さい。